継続の意義

OB 会会長　22 期　黒崎　敏男

小生、訳あって今春から日本山岳会の正会員となってしまい、会合などに参加するようになりましたが、100 年以上の歴史を有する同会も本会同様に会員の高齢化に伴う活動力縮小と新規入会の停滞の状況に頭を悩ませつつも、公益社団法人として野外活動の普及促進、調査活動を伴う海外遠征や山岳文化の発展等に努力されておられます。

そもそも団体の性質が全く違うので本会とは比較すべきではありませんが、本会の維持・運営にも参考とさせてもらうため大先輩方から薫陶を受けております。

1950 年代から盛んになった大学のワンダーフォーゲル活動で育った皆様も OB・OG となられ、最高齢の先輩は 80 歳代と、現役大学生が自分のひ孫の年代となられた方もいらっしゃるのではと思いますが、当該活動が最盛期だった時代に青春の時期を過ごされたいわゆる団塊の世代の先輩方の力はその時代時代のあらゆる活動を支えるパワーを発揮していたのだと感じます。そうしたパワーも時間の流れとともに落ち着いた関係か、各大学の様々な OB 会活動もさすがに活動の最盛期を過ぎた感はあるようです。

しかしながら、第 1 次ベビーブーマー、現在の 70 歳代の皆様の若さにはいまだ驚かされることが多くあります。本文の小屋作業の項で紹介しておりますが、今や上級者・熟練者向きとなってしまった高三郎山に今春登山された先輩は 70 歳でありましたが、こちらがへばっていた中、平然としておられるお姿を見て、「鍛錬の持続は人生を豊かにする」というイメージにつながったような気がしました。

我々が日常いかに安らかに生活をしているかは病気、けが、事故、災害などに遭遇した際にしかわかり得ぬものかも知れません。過信せず可能な範囲で心身の力を維持して、好きな活動を継続し、残された人生を十分に楽しみたいと思います。

さて、「やまざと」は本号から新しい執行部で発行させて頂きますが、これまでの編集方針はほぼ引き継ぎます。ただ、経費削減のため、写真の画質など従来に比べ簡素に見える部分があるかもしれませんがその点ご容赦ください。

表紙写真は上馬康生さん（15 期）に今後 4 回分担当頂きます。見る方向で様々に姿を変える白山ですが、たくさんある白山登山道の中で四方からの眺めを紹介してもらいます。また、題字は中川晃成さん（23 期）によるものを引き続き掲載させて頂きますが、中川さんは今秋、日展入選されたことを併せてご報告させて頂きます。

多くの会員が携わって支えてきた、この伝統ある会報誌「やまざと」が会員相互の親睦の絆となることを祈念しております。